

メキシコ国際平和版画展で 加藤昭次さんが頂点に！

彫刻刀で奏でる
緻密な掘り。
華麗な色彩で織り
成す芸術…木版画。

日常的なものを使って非現実的な 世界を演出した渾身の木版画作品 「午後のまどろみから目覚めて」

メキシコのモントレイ市で開催された、「第2回メキシコ国際平和版画展2009」（平成21年9月8日～10月30日まで開催）で木版画家の加藤昭次さん（前原・4区）が、第一位に輝きました。版画展では、世界48か国から280人もの芸術家が作品を出展。その作品の中から、加藤さんの作品「午後のまどろみから目覚めて」が、その頂点に立つという快挙を達成しました。第一位に輝いた加藤さんには、副賞として4月に現地メキシコで個展を開催する権利が与えられました。

これからも自分の作風を
大切にしていきたい

最高賞の第一位をいただいて、とてもうれしいです。今まで自分の作品を数々の版画公募展に、出品していましたが、今回が最高です。

正直、今では安心感の方が強いですが、出品するときは、自分の作品、言い換えれば、自分の木版画の作風が、受け入れてもらえるかどうかという、不安の方が強いですからね。今回の受賞で、自分のやってきたことは間違いないと確信しました。何より作風が認めてもらえたことが、うれしかったです。今回の作品「午後のまどろみから目覚めて」は、日常的なものを使って現実の世界ではあり得ない空間、つまりは、まどろみの中の不思議な世界を描きたかったのです。インスピレーションで、構想は決まり、すぐにできあがりました。また、色彩も豊かにして、この不思議な世界を表現できるように、心がけました。

幼いころから絵を描くことが何より大好きでした。高校で教諭を務めるかたわら、木版画と出会い、友人の作品を美術館に見に行って、本格的に制作に取り組み始めました。

その一年後、第六回川上澄生美術館木版画大賞展で初入選。平成15年の同木版画大賞展では準大賞を受賞することができました。自分には木版画が合っている、いつしか確信に変わり、自分の作風も確立できたと思います。

木版画は自分にとって
なくてはならないもの

木版画は自分に本当に合っていると思います。何より楽しくて、好きだから継続できるのです。今後自分の作風を大切にしていきたいです。

また、子どもたちにも木版画の素晴らしさを伝えたいですね。そして、いつの日かその子どもたちが、芸術家として世界に羽ばたいてほしいです。

「大好きな木版画を続けることが 自分にとってのハッピーライフです」



「午後のまどろみから目覚めて」
Waking up from the sleepiness of the afternoon

作品は、人が横たわった上に金魚やサッカーボール、球体を浮遊させ、さらにサボテンを配置した独創的な構図。作者の身の回りにある、日常的なものを版木に掘り込み、「眠りから覚めて目を開けてみると、そこは、まどろみの中の不思議な世界」であるということをもメインテーマとして描いている。



加藤昭次さん (前原・4区)

かとうしょうじ●1946年生まれ。木版画家。1999年から本格的に木版画の創作活動を開始。2000年に開催された第6回川上澄生美術版画大賞展では、「in search of age（時を求めて）」で初入選。その後も、数々の木版画コンクールで入選を果たす。2003年の第9回川上澄生美術版画大賞展では、準大賞を受賞。2009年に初の国際コンクールとなる、第2回メキシコ国際平和版画展で第一位に輝く。4月には、メキシコで個展を開催予定。趣味は、サボテンの栽培など。

加藤昭次木版画展示会

期間 1月21日④～31日⑤

会場 町立図書館

※休館日を除きます。